



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体
抗CA125モノクローナル抗体(ヒストステイナー用)
 (動物種：マウス)

包装： 60テスト(12mL) Code：713821

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布：ヒト CA125 抗原と特異的に反応する。ヒト卵巣癌抗原 CA125 のコアタンパク質に発現される反復タンパク質の決定因子であり、膜貫通領域である短い細胞内ドメインと、非常に大きく多くグリコシル化された細胞外ドメインを持つ type I の膜タンパク質である。MUC16 としても知られている。正常では、胎児組織に多くみられ、成人組織では、アポクリン汗腺細胞、乳腺の導管等に反応がみられる。腫瘍では、大腸癌、乳癌、子宮乳頭漿液腺癌、子宮類腺腫、卵巣類内膜癌、卵巣漿液腺癌、甲状腺乳頭腫等多くの腫瘍に反応がみられる。
- クローン名：Ov185:1
- 抗体のサブクラス：IgG1
- 免疫原：卵巣上皮癌患者の癌組織から部分的に精製したムチン画分
- 製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗 CA125モノクローナル抗体(動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と 0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1 バイアル中に 12mL を含む。

2. 使用目的

組織・細胞中の CA125 抗原の染色。

3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)としてヒストファイン 抗原賦活性化液 pH9 (Code:415201 または Code:415211)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

4. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗 CA125モノクローナル抗体
試薬略称(10文字)	CA125-MM
バーコード	CA125-MM
時間(分)	30

8. 参考文献

- (1) M. Franchi, et al: Italian journal of gynaecology & obsterics 4 : 149-152, 1993
- (2) Cynthia I. Macri, et al: Gynecol Obstet Invest 37: 143-144, 1994
- (3) Takaaki Ohmori, et al: Pathology International 44 : 333-337, 1994
- (4) Chunlin Ye, et al: Gynecologic Oncology 52 : 267-271, 1994
- (5) Turgut Alagoz, et al: Gynecologic Oncology 53 : 93-97, 1994
- (6) J. M. Rodriguez : Clinical Oncology 6 : 137, 1994
- (7) Marcin Gabriel, et al: Ginekologia polska 70 : 819-823, 1999
- (8) Eivind Hovig, et al: Tumor Biology 22 : 345-347, 2001
- (9) Timothy J. O'Brien, et al: Tumor Biology 23 : 154-169, 2002

■ 研究用としてのみ使用すること。

■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片 (3-4 μ m厚) をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化) : オートクレーブ処理
 - ①緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑥スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

・ 抗原賦活化液pH9の作り方

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ Code : 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。・ Code : 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。 |
|---|